

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和元年8月22日

釧路市議会議長 様

会派名 自民市政クラブ

代表者名 草島 守之



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	金安 潤子
出張先	大阪府大阪市
期間	令和元年8月11日 ～ 8月13日 (3日間)
用務	議員のための 子どもの発達・基礎セミナー、学校いじめ予防セミナー参加
調査(研修) 結果等の概要	別紙報告書参照
備考	

注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。

2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

視察テーマ：議員のための子どもの発達・基礎セミナー

講師 和久田 学 氏

視察場所：大阪大学中之島センター

視察日時：8月12日（月）13：30～15：00

発達障がいの子が増加傾向にある中、脳科学からの最新の研究成果を含め、エビデンスに基づいたセミナーで、市民からの相談に寄り添ったアドバイス、そして政策・施策提言に向け大変参考となった。

Unit 1 教育制度について

特別支援教育については、制度は既に整っている。問題は中身の充実（質の担保）である。特別支援教育・インクルーシブ教育は、障害者権利条約から障害者差別解消法の流れがある。我が国は障害者権利条約締結において、世界140番目とことからこうした法的枠組みにおいて後進国と言わざるを得ない。日本ではこの権利よりも親の権利が優先する中、その子に合った教育課どうかを明確に親に説明できる専門家が必要である。すべての子どもの目標は成人期の幸せであり、世界の潮流からも、障害児者及び子どもの権利を守ることに敏感になり、ニーズに応じた公平性の必要性が増している。

Unit 2 教師と学校の問題について

教師の体罰や不適切な指導の問題が起こるのは、教師に必要な知識、スキルが十分でないためである可能性が高い。体罰など、子どもの権利を侵害する行為であるばかりではなく、子どもの発達に負の影響を及ぼし、より深刻な虐待にも発展する。教師は、子どもを傷つけることの問題を科学的根拠に基づく指導法について研修する必要がある。子どもの発達支援・指導継続は、データの集積とその有効活用にあり、その仕組み作りが急務である。

Unit 3 発達障がいについて

発達障害は脳の機能障害であり、親のしつけ不足や本人の努力不足ではない。発達障害児者の支援の第一歩は、正確な理解と早期発見・早期支援にある。が、日本では「問題が起こってから発達障害に気づき、支援が始まると」というパターンになっており、この構造を変えない限り、支援は成功しない。

まとめ

子どもの発達に関して日本は十分な支援が出来ていない。ニート、引きこもり、犯罪などの社会問題の多くは発達支援の不足と科学の不在である。データの集積とその有効活用により特別支援教育の充実を図るべきである。

視察テーマ：議員のための学校いじめ予防セミナー

講師 和久田 学 氏

視察場所：大阪大学中之島センター

視察日時：8月12日（月）15：30～17：00

いじめを「被害者」「加害者」「傍観者」の観点から科学的にアプローチし、いじめを防ぐための方略、学校や地域はどのように予防すべきか、制度と課題について学んだ。

Unit 1 いじめに関する法律、制度等の現状

いじめ防止対策推進法などの制度が整備されてきたことは評価に値するかもしれないが、そもそもいじめがなくなるような環境整備がなされていないこと、具体的な方法は現場に任されている事が大きな課題である。重大事態の研究は進んでいるが、軽微ないじめの研究が無いことも課題であり、こうした課題が、総務省の勧告でも指摘されていないことが大きな問題である。

Unit 2 いじめの科学

いじめを深刻化させるキーワードは「力の不均衡(Unbalanced Power)」と「不公平な影響(Thinking Error)」である。学校でのいじめ対応については既にエビデンスに基づいたプログラムが多数開発されており、そうしたことをもっと現場に知らせていかなければならない。

Unit 3 いじめへの具体的対応

いじめの問題は子どもの発達に書く影響を与え、成人期の様々な問題を引き起こす。日本におけるいじめ対策は「いじめ防止対策推進法」の施行により充実してきてはいるが、科学が不足している。いじめに関する具体的な事実を研究により明らかにし、何が対策として意味があるのかを見極め、エビデンスに基づく「いじめの授業」が必要である。

公益社団法人
子どもの発達科学研究所

浜松オフィス
〒430-0929 静岡県浜松市中区中央 1-3-6-201
TEL/FAX：053-456-0575
Mail：wakuplanet@kodomolove.org

小児発達学博士
主席研究員
大阪大学大学院 特任講師
和久田学